

DRAWMER

MQ-2

Equaliser & Compressor for the 500 SERIES RACK SYSTEM

取扱説明書 Ver1.00



株式会社 サウンドハウス

〒286-0825 千葉県成田市新泉14-3

TEL:0476(89)1111 FAX:0476(89)2222

<http://www.soundhouse.co.jp> shop@soundhouse.co.jp

安全に関する注意事項

注意

修理作業は行わないでください。すべての修理作業は有資格の担当者に依頼してください。

警告

火災または感電事故を防止するため、本機を雨や湿気にさらさないでください。

警告

本製品や他の 500 シリーズモジュールを取り付け／取り外しする前に、500 シリーズブラックの電源を必ず切ってください。本製品はホットスワップに対応していません。電源を入れた状態で本製品を取り付け／取り外しすると本製品または他の機器に損傷を与えるおそれがあります。

製品開発のため、事前の通知なく、本製品の仕様を変更または改善することがあります。

はじめに

この度は、DRAWMER/MQ-2 をご購入いただき、誠にありがとうございます。MQ-2 はステレオ仕様の7バンド・プロポーションアル Q イコライザーです。本製品の性能を最大限に発揮させ、末永くお使いいただくため、ご使用になる前にこの取扱説明書を必ずお読みください。



伝説的な「Motown EQ」から着想を得て、MQ-2 はステレオ仕様の7バンド・プロポーションアル Q イコライザーとして設計されています。1960年代の名高いデトロイトのスタジオで使われていたイコライザーのカーブを踏襲し、完全アナログのEQとして仕上げました。7種類のベルカーブを備え、各バンドは $\pm 10\text{dB}$ の可変カット/ブーストに対応します。原型の音楽的な周波数設定を美しく受け継いでいます。

ただし、MQ-2 はEQ だけではありません。信号の特性に合わせてエンベロープが追従する、プログラム依存型のノブ式コンプレッサーも搭載しています。操作は無理なく直感的で、ダイナミックレンジのコントロールに役立ちます。

さらに本製品には、1971年に登場した「CRUSH」機能を高度に発展させた回路も組み込まれています。クラッシュ回路を有効にすると、心地よい倍音のサチュレーションと、信号に独特の個性を加えるクラシックなアナログの温かみが得られます。結果として低域は引き締まり、中域の存在感が増し、高域には心地よいきらめきが加わります。EQ を強くドライブするほど、より強い Crush がかけられます。2チャンネルをそれぞれ独立したシングルコントロールで扱えるため、狙っていたクラシックで温かいアナログサウンドを、これまで以上に簡単に引き出せます。

Drawmer MQ-2 主な特長

- ・ 500 シリーズ向け、ステレオ 7 バンド・プロポーションナル Q イコライザー
- ・ 1960 年代の Motown EQ に着想
- ・ 500 シリーズのスロットを 2 つ使用
- ・ 倍音サチュレーションでミックスを温かくする「CRUSH」機能を統合
- ・ $\pm 10\text{dB}$ の可変ブースト/カット
- ・ ノブ式コンプレッサーでレベルを手軽に整えられます
- ・ 信号経路内で EQ/コンプレッサーの順序を切り替えられます
- ・ 充実したメーター表示
- ・ ハードワイヤード・バイパス
- ・ 英国で設計・製造されています

設置

MQ-2 は単体では動作せず、電源供給およびオーディオ接続には、API 500 シリーズ互換ラックフレーム（別売）に備わる電源とコネクタが必要です。

MQ-2 を 500 シリーズ互換ラックに取り付ける手順

1. 取り付け作業の前に、必ず 500 シリーズラックの電源を切り、主電源からプラグを抜いてください。500 シリーズラックは「ホットスワップ」向けに設計されていないため、通電したままの作業は本製品およびラック内の他の製品を損傷するおそれがあり、保証が無効になります。
2. MQ-2 を梱包から取り出したら、MQ-2 1 台につき空きスロットを 2 つ確保してください。
3. 500 シリーズラックのスロットに挿入する際は、MQ-2 のカードエッジコネクタがラックの EDAC コネクタと一直線になるよう確認し、位置を合わせながら、できるだけまっすぐに保ったまま、完全に収まるまで MQ-2 をやさしく押し込んでください。過度な力は加えないでください。
4. フロントパネルのネジ 4 本を締め付けてください。
5. 背面に XLR ケーブルを接続し、ラックの電源を入れてください。MQ-2 は自動的に起動し、使用できる状態になります。

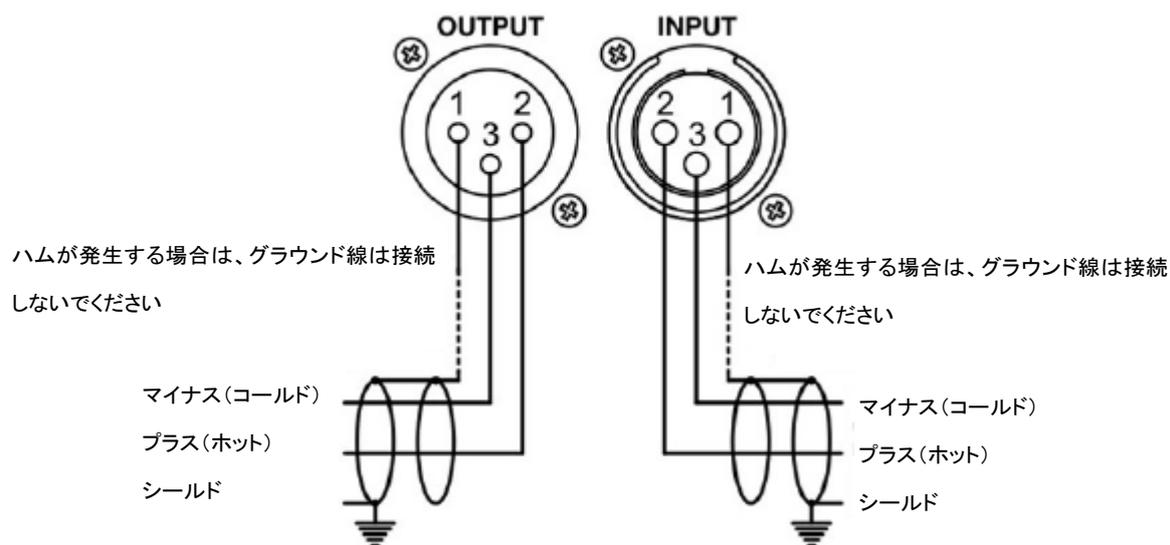
オーディオ接続

500 シリーズラック背面の入出力端子は、電子バランス出力の XLR、または一般的な配線の XLR（ピン 1=スクリーン、ピン 2=ホット、ピン 3=コールド、XLR シェルはシャーシに接続）です。バランス配線の使用を推奨します。

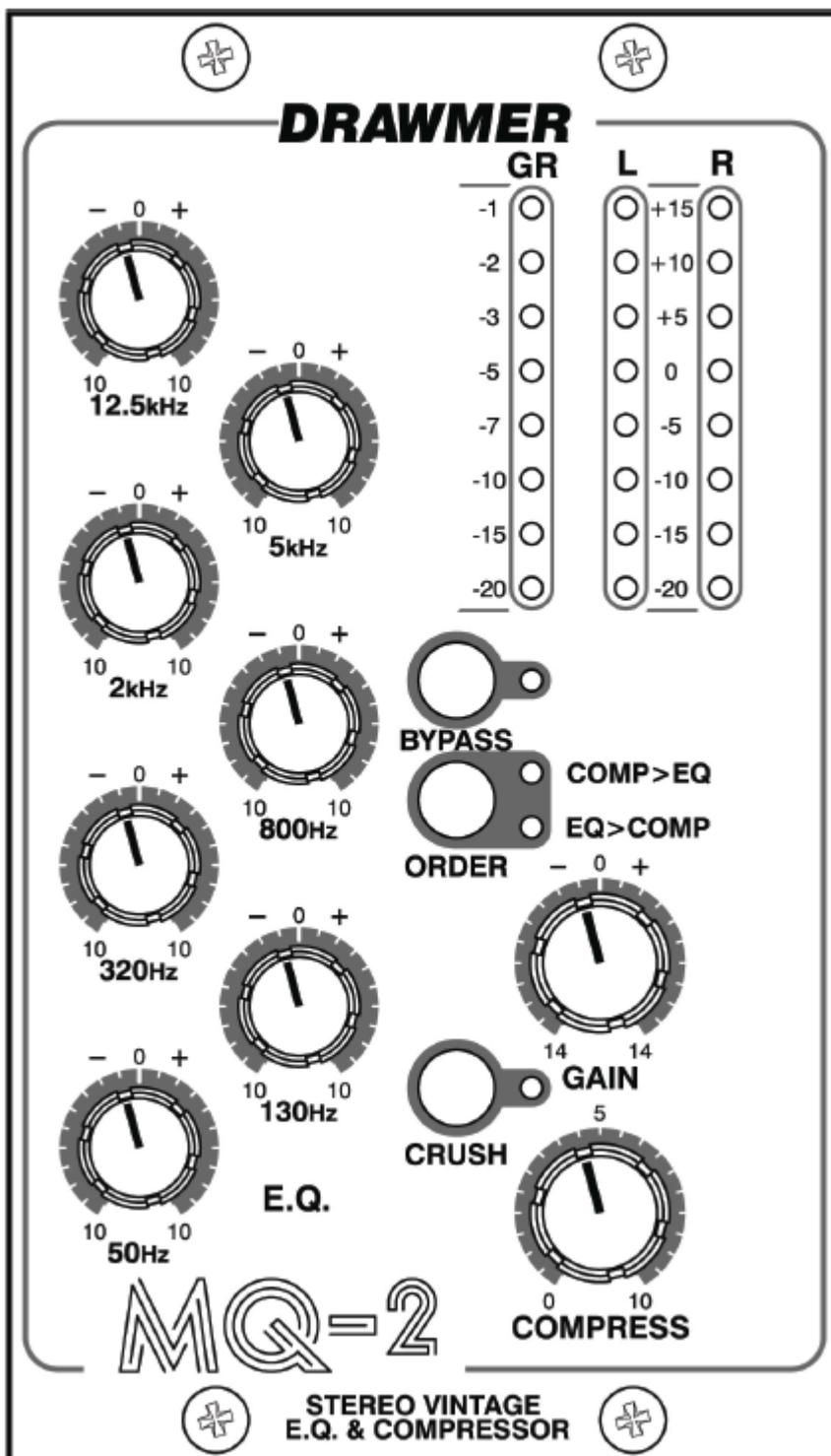
（詳細は、お使いの 500 シリーズの取扱説明書をご参照ください。）

出力／入力

グラウンド線は接続しないでください（グラウンド・ハムループが発生している場合）



各部の名称



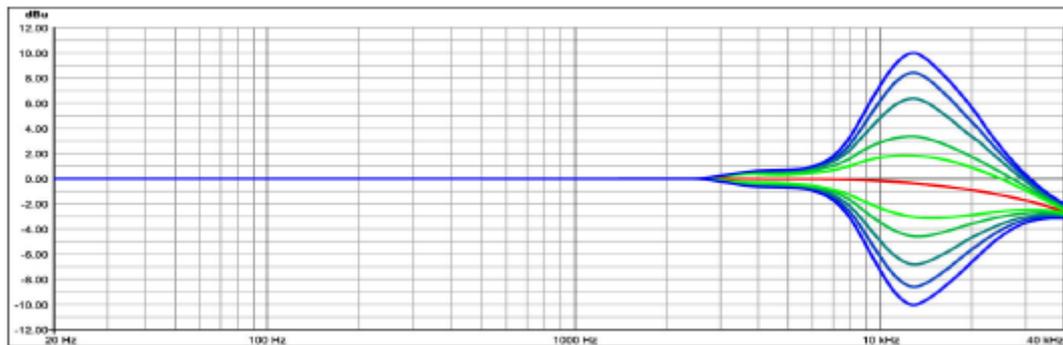
MQ-2 はステレオ仕様のため、すべてのコントロールが左右チャンネルの設定に同時に作用します。

イコライザー +10~-10dB

Motown のスタジオで使用されていたオリジナルのイコライザーに設定された周波数に合わせ、固定周波数のベルカーブ・コントロールを 7 つ備えています。各バンドは最大 10dB まで、広い範囲でカット/ブーストできます。

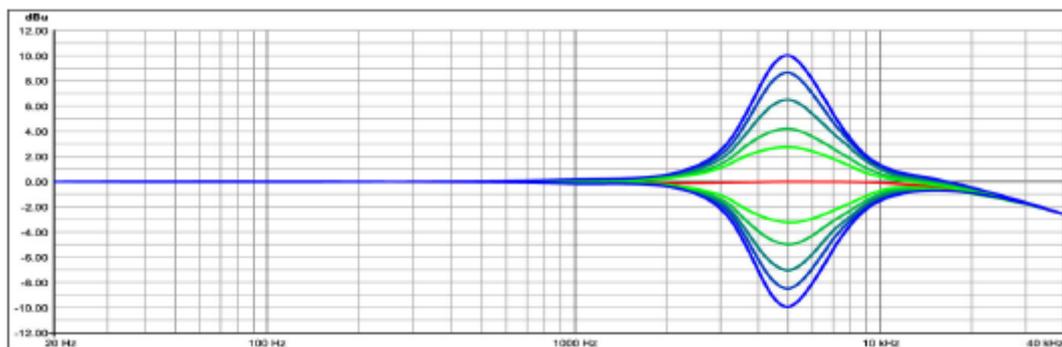
12.5 kHz プリリアンス

この帯域は、きらびやかな質感を得たり、音にエアー感を加えたりするのに使用します。ただしブーストしすぎるとシビランスが強調され、耳が疲れやすくなります。



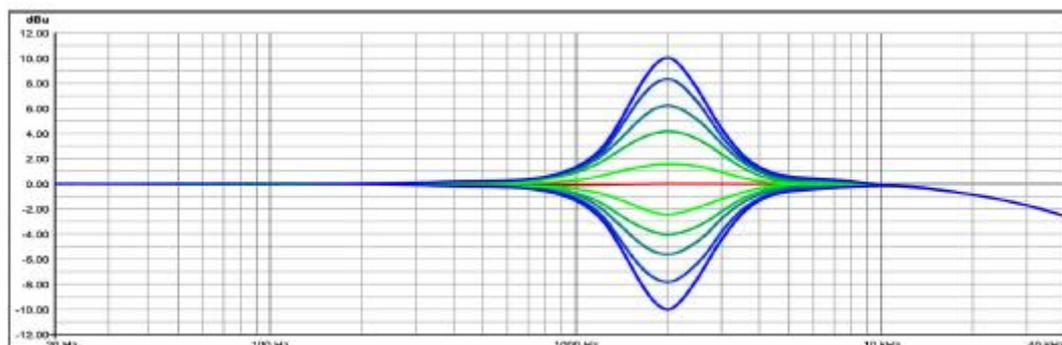
5 kHz プレゼンス

ブーストすると明瞭さが増し、信号にエッジが加わります。ただし上げすぎると音が刺激的になり、逆に下げると距離感のある印象になる場合があります。



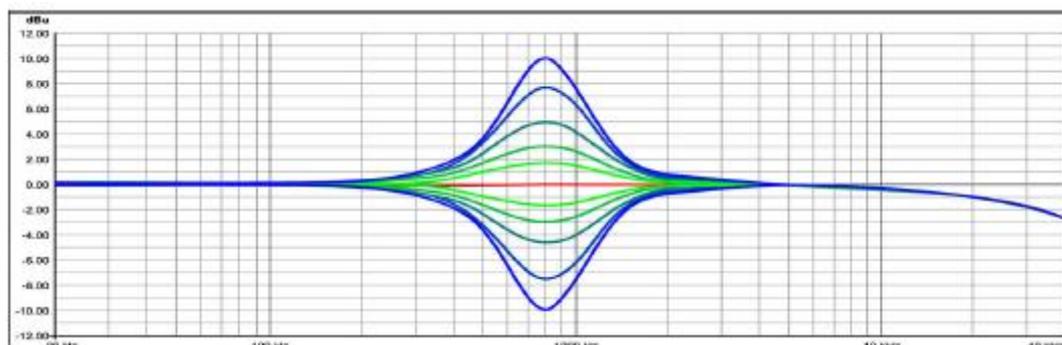
2 kHz アッパーミッドレンジ

この周波数は、打楽器のアタックの存在感と輪郭を強めたり、ザクツとした質感を加えたりするうえで重要です。ただしブーストしすぎると耳が疲れやすくなるため、控えめな調整がポイントです。



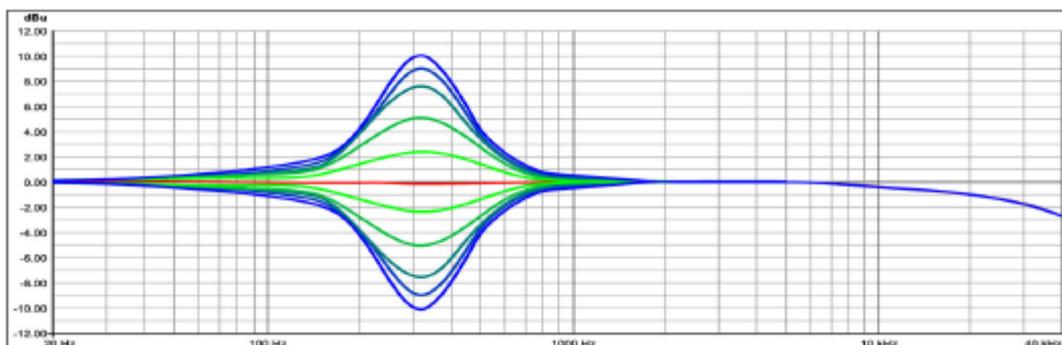
800 Hz ミッドレンジ

ブーストすると、ミックス内の各要素が見えやすくなります。ただし使いすぎると鼻にかかったような音になり、適切に調整しないと耳が疲れやすくなります。



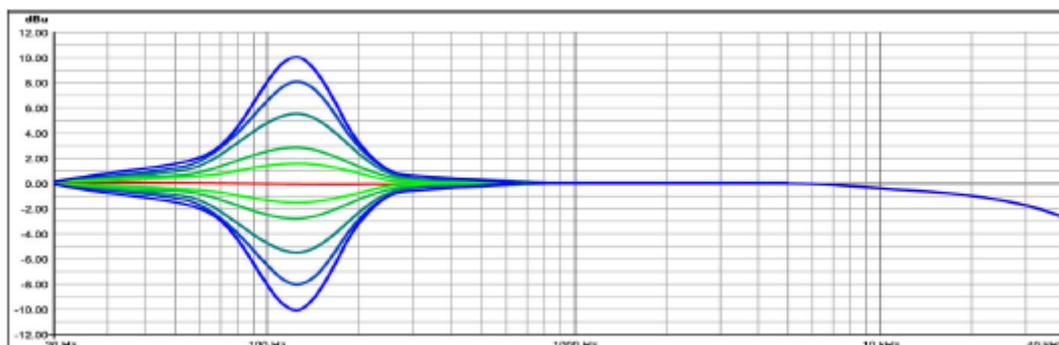
320 Hz ローミッドレンジ

この帯域は、低域の存在感、輪郭、厚みを加えるうえで重要です。上げすぎるとこもった音になり、下げすぎると中身が抜けた印象になります。



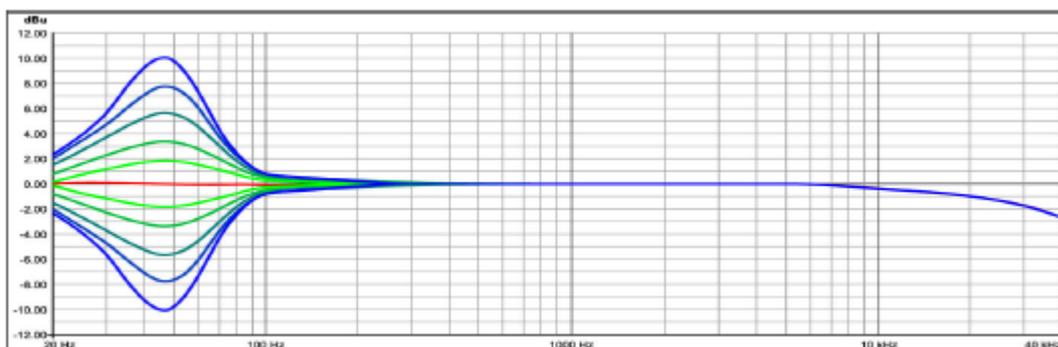
130 Hz ベース

この帯域をブーストすると温かみが増し、アタック感が強まって、より深い響きになります。ただし上げすぎると低域が膨らんだ音になり、逆に不足すると薄い音になります。



50 Hz サブベース

この周波数は、聴こえるというより体で感じやすく、重量感としっかりした土台を与えて胸に響くような低域になります。ただし低域のランブルも強調されやすいため、調整には注意してください。



コンプレッション 0~10

コンプレッションは信号のダイナミックレンジを抑え、聴感上の音量を増やします。MQ-2では、コントロールは1つだけです。

プログラム依存型のため、信号に合わせてアタック/リリース特性が自動的に適応し、エンベロープも適切に変化します。

ノブを反時計回りにいっぱいまで回すとコンプレッションはかかりません。ノブを上げるほど、コンプレッション量が増えます。なお、G.Rメーターが示すとおり、コンプレッサーにより減少したゲインを補うには、EQをより強くドライブするか、出力ゲインを上げる必要があります。

CRUSH オン/オフ

MQ-2 に内蔵された CRUSH は、固定タイムコンスタントのオートメイクアップ・コンプレッサーを追加し、心地よい倍音成分を加えます。

Crush ボタンはブーストした周波数にのみ作用し、カットした周波数には作用しません。そのため、効果の出方は周波数、ブースト量、適用する素材によって変わります。

低域で使用するとキック、トム、スネアドラム、ベース、ギターなどリズムセクションの音を引き締められます。中域ではミックスを温かくし、存在感を高めます。ギターの厚みやパーカッションの抜け感も向上します。アタックの効いたピアノにも適しており、ラフさを加えたりボーカルに明るさを与えたりできます。さらに高域ではシンバルや弦楽器をきらびやかにし、バランスを調整する帯域のブーストがより目立つようになります。

Crush を強く効かせるために特定のバンドをさらにブーストしたい場合は、レールに到達してしまう信号レベルを GAIN コントロールで下げられます。スイッチを使い、A/B 比較で効果を確認してください。

GAIN +14~-14dB

メーターを目安にしながら、必要な出力レベルになるよう出力ゲインを調整してください。コンプレッサー使用時は、このコントロールでゲインリダクション分を補えます。Crush の倍音を得るために EQ を強くドライブし、バンドで大きくゲインを上げた場合も、このコントロールで必要な出力レベルまで戻せます。

順序 COMP→EQ/EQ→COMP

このスイッチで信号経路を切り替え、EQ を先に通すか、コンプレッサーを先に通すかを選べます。どちらの順序でも各チャンネルは同じ動作をしますが、音質や色付けは大きく変わります。

注意：オーディオチェーン内で EQ とコンプレッサーを入れ替えると、わずかなポップノイズが発生する場合があります。切り替える際はゲインを下げてください。

バイパススイッチ

バイパスを有効にすると、信号処理を行わず入力信号をそのまま出力へ送ります。A/B 比較に使用してください。

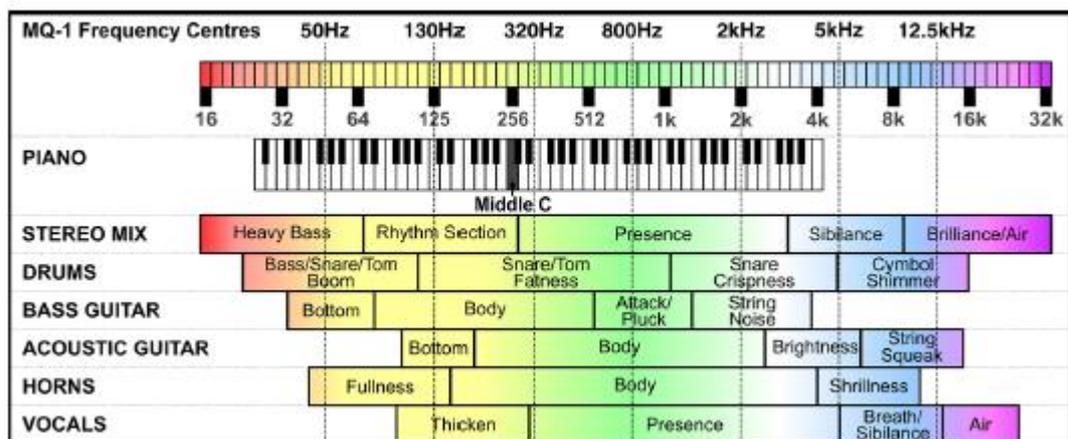
G.R メーター -1/-2/-3/-5/-7/-10/-15/-20dB

8 セグメント LED バーグラフで、コンプレッサーによるゲインリダクション量を 0~30dB の範囲で連続的に監視します。

左右 V.U.メーター -20/-15/-10/-5/0/+5/+10/+15dB

左右それぞれに 8 セグメント LED バーグラフ・レベルメーターを備え、出力信号レベルを -20dB~+15dB の範囲で表示します。

有用な周波数



仕様

入力

入力インピーダンス 20k Ω

最大入力レベル +16dBu

出力

出力インピーダンス <100 Ω

周波数特性

20Hz~20kHz +/-0.5dB

%THD&ノイズ

@1kHz、基準 0dBu 0.01%

ユニティゲイン時のノイズ(基準 0dB、コンプレッション=0)

20Hz~20kHz -80dB

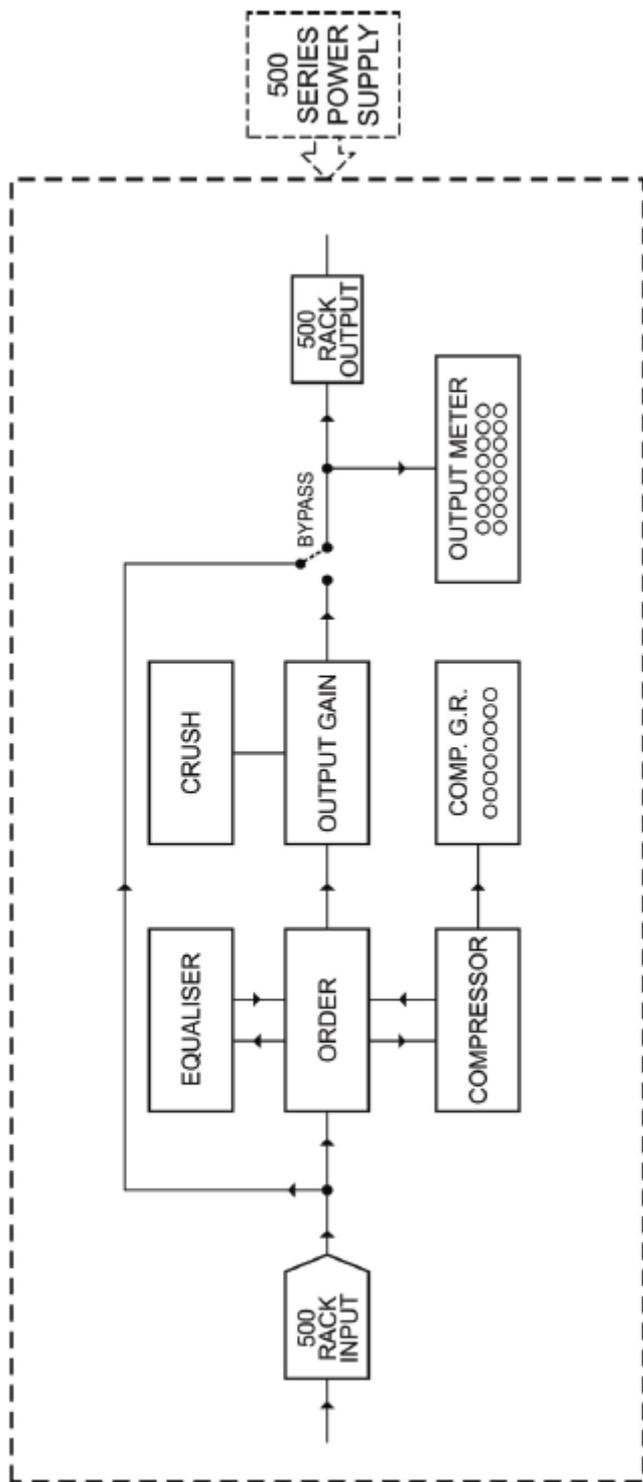
サイズ

500 シリーズスロット×2

重量

0.54kg

ブロックダイアグラム



Ref:1v01 B 27-01-25